収蔵庫なじょな

なかなか展示の出番がこないけれど、実はとっても面白い。キラリと光る資料を各分野から紹介します。

考古

須恵器把手付平瓶（すえきはしゅつきひらべ）

昭和初期に現在の伊達市梁川の丹野狄仙（栄七）氏が収集したコレクションの一つです。狄仙氏は1,400点あまりの考古資料のほか、遺物のスケッチと考察をまとめ、自宅を「尚古堂」と名付けて資料を展示していました。

スケッチと資料を見比べてみると、特徴をよくとらえていますね。この須恵器は、現在の南相馬市鹿島区の古墳から蕨手刀とともに発見された、とも記されています。把手の付いた平瓶が出土することは大変珍しく、8世紀前半に近畿地方で製作されたものと考えられます。

歴史

太平洋戦争の爆弾破片

「太平洋戦争の爆弾破片」と名付けられた本資料には、アメリカ軍が昭和20年（1945）7月20日に渡利字沼ノ町（福島市）へ投下した爆弾の破片であると書かれています。近年、館蔵の戦争資料を調べる過程で、この破片が模擬原爆のものであることがわかりました。アメリカ軍は本物の原爆を投下する前に、原爆と同じ大きさ・重さの爆弾を複数作り、日本国内で投下訓練を行いました。そのうちの1か所が渡利だったのです。この資料をご寄贈いただいた昭和61年（1986）時点では、模擬原爆の存在は知られていませんでしたが、研究が進展したことで素性が明らかとなりました。

美術

八角葵紋九曜紋散蔷薇桜蒔絵挟箱（はっかくあおいもんくようもんちらしばらさくらまきえはさみばこ）（同慶寺蔵・当館寄託）

南相馬市小高区にある同慶寺は相馬藩主・相馬家の菩提寺です。藩主や家族の霊をまつる御霊屋には藩主や奥方たちが使った器や道具類が納められていました。福島県内では他に例がない質量の大名調度です。2011年、東京電力福島第一原子力発電所事故で小高区が避難地域になったため調度類を福島県立博物館に避難することになりました。環境が整い御霊屋に帰れる日まで県博の収蔵庫で大事にお預かりしています。

白虎隊士母子図

作者不詳のため展示の機会が少ない一点です。もとのご所蔵者には会津の江戸後期から明治の女流画家・河野久良女の作と伝わっています。

左の少年が白虎隊士であることは容易に想像がつきますが、白虎隊士を描いた作品はほとんどが飯盛山での自刃を描いたものです。そんな中、母に会いたくても武士として堪えなければならないと詠った和歌を添えたこの絵は白虎隊の少年への母の愛情を描いた珍しい作品です。

民俗

東日本のわら人形コレクション

福島県内の12件（21体）を中心に、大小50体を超える「村を守るわら人形」の資料を収蔵。収蔵品は東北各県（宮城県を除く5県）、新潟県、関東各県（茨城県・千葉県・栃木県）に及び、日本でも有数のコレクションです。

中でも、田村市船引町のお人形様は高さ４m。収蔵庫にはそのままでは入らないので、お面・胴体の柱・髪の毛（杉の葉）・装束（何枚ものゴザ）など、いくつものパーツに分けて保管しています。（※当館図録『ふくしま 藁の文化』に全点写真入りで収録しています）

自然

トンボの化石？

このトンボの化石に見えるもの。実は描かれた偽物です。偽物ですから、展示する機会はほとんどありません。どこがおかしいか、本物のトンボと見比べてみると良いかもしれません。

微化石処理用の岩石

当館では肉眼で見えないような小さな化石も研究してきました。

そうした化石を探した後に残された岩石です。化石や地質を再び調べる必要が出てきたときのために、収蔵庫で眠っています。

災害　落下した体育館照明（撮影場所：富岡町　2015.9.15）

もしもの時に、「まさかのできごと」が起こるのが災害です。東日本大震災では、体育館の天井につり下がっていた照明が落ちてしまいました。みなさんが普段生活している場所は安全ですか？みなさんの生活を見直すきっかけとなればと考えています。

「ふくしまの経験」を伝える資料として「震災遺産」があります。震災遺産は未来を創る資源として活用しています。防災学習の出前講座を行っています。ご相談をお待ちしています。

福島県立博物館
Fukushima Museum

開館時間9:30～17:00（最終入館は16:30まで）
お問い合わせ TEL0242-28-6000 FAX0242-28-5986
〒965-0807 会津若松市城東町1-25
HP https://general-museum.fcs.ed.jp e-mail general-museum@fcs.ed.jp

なじょな2024特別号　2024年3月27日発行　発行／福島県立博物館

■JR会津若松駅から約3km
・タクシーで約10分
・まちなか周遊バス「ハイカラさん」で約20分　（鶴ヶ城三の丸口下車すぐ）
・まちなか周遊バス「あかべえ」で約30分　（鶴ヶ城三の丸口下車すぐ）

観覧料

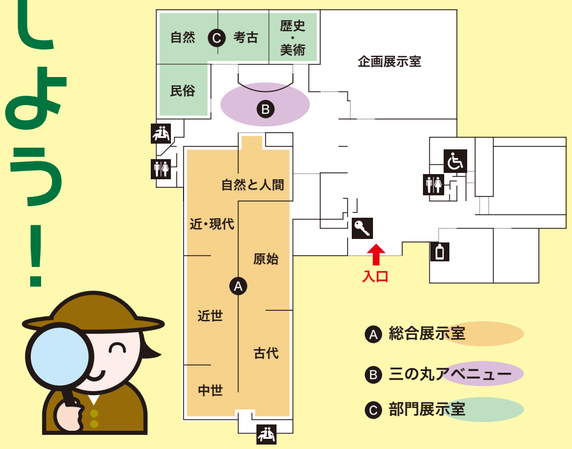
■常設展観覧料　一般・大学生280円（20名以上の団体は220円）
■高校生以下は常設展・企画展ともに無料です。
■年間パスポート　2,000円　購入日から1年間、当館主催の企画展や常設展が何度でもご覧いただけます。
■三施設共通券（当館常設展・鶴ヶ城・茶室麟閣）　一般・大学生630円

YouTube

車椅子使用者用駐車場
・博物館西側「鶴ケ城三の丸口」バス停そば：2台
・一般駐車場内博物館入り口側：3台
※ご不明の点はお問合せください。

常設展示室を探検しよう！

福島県立博物館は企画展だけじゃなく、常設展も面白い。時代を順番にタイムスリップできる総合展示室と、各分野のことを詳しく紹介する部門展示室があるよ。いつでもみられる展示の意外と知らない物語を一緒にのぞいてみよう。



図出典：大須賀清光『会津千代松袖鑑』

B 三の丸からプロジェクト

A 近・現代　木炭バス

近現代の展示室で一際目を引くのが、「木炭バス」の1/1スケール模型。

特徴は後方に取り付けられた木炭の燃焼装置です。この模型は、昭和16年（1941）から昭和26年頃にかけて、福島・浪江間を走行したバスをモデルにしました。蒸気機関車の動輪をモチーフにしたマークが車体前面にあり、国鉄（日本国有鉄道）のバスであることを示しています。中通りの福島から浜通りの浪江を繋ぐ鉄道はないため、大切な移動の手段でした。

日本は昭和13年から続く日中戦争によって燃料が不足し、昭和16年からガソリンを使わない代用燃料を使ったバスの運行が本格的に始まりました。同年12月に開戦したアジア太平洋戦争が、燃料不足を深刻化させたことはいうまでもありません。「木炭バス」の構造は、燃焼装置で木炭を不完全燃焼して可燃性ガスを発生させ、そのガスをエンジンに供給して走る仕組みでした。操作に慣れた運転手でも、発車時刻の1時間ほど前から木炭を燃やして準備する必要がありました。力が足りないため、坂道で停車してしまうこともあったようです。「木炭バス」は戦争と燃料、そしてエネルギー問題など、現在の私たちに大切な問いかけをしてくれているように思います。

A 近世　木地小屋

今でも県土の全面積のうち約70パーセントを森林が占めている福島県。近世の福島県域ではブナやトチなどの良い木が多く、それらを伐って椀などに加工する木地師という職人集団が数多くいました。若松城下での漆器業の発展とともに、木地師もその素地となる木地椀を大量に作り城下におろしていたのです。木地師は良材を求めて山中を移動するため、移るたびに展示室にあるような木地小屋を建てて暮らしていました。各地に残る「木地小屋」という地名や、会津地方の山中にいくつか残る木地師の集落跡も、その歴史を示しています。

制札場（せいさつば）

昔の人たちは、どのように法令を知ったのでしょうか。特に人目につきやすい町辻などに、幕府や藩の掟を伝える制札が掲げられました。忠孝の奨励やキリシタンの禁止など、庶民に知らせたいことを木の板に簡潔に示し、掲示板のような形で伝えました。文字の読めない人々のために、町・村役人による読み聞かせも行われました。制札に書かれた内容は、庶民の教科書にも用いられました。読み書きを学ぶ中でも、自然と法令に親しむことができたんですね。

A 中世　好嶋庄（よしまのしょう）の景観復元模型

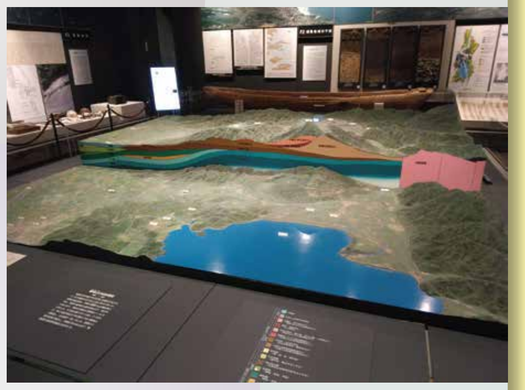
歴史上の有名な人物はともかく、私たちと同じような一般庶民が、中世には、どこで、どのように暮らしていたのか、気になったことはありませんか。この模型は、その手がかりを示しています。

中世の人々が家屋敷を構えて暮らしたところは、中世の古文書に「○○村」という村の名前で現れます。その場所を現在の地名等と照らし合わせ、おおよその位置を模型上に表示しています。たとえば、西から流れてくる「好間川」の谷沿いに「好嶋郷（村）」、南を流れる宮川（新川）の下流に「新田村」「東目村」、ふたつの川にはさまれた台地の周辺に「飯野郷（村）」を探してみてください。

中世の村は、河川沿いの微高地や谷の周辺に点在します。また「新田村」「今新田村」などは、その名称から新たに開発された耕地を伴う村と考えられます。

中世の村で耕地の開発や経営を主導したのは、城館に住む武士たちであり、寺院・神社の僧侶や神職も関わっていたと考えられています。

A 自然と人間　磐梯山地形模型



山にも私たちヒトと同じく歴史があります。その歴史は地層として地下に残されています。1000万年以上前には、後に磐梯山となる地域は海底にありました。約800万年前に隆起して陸地となり、約150万年前には猪苗代湖の南方で火山が噴火して大規模な火砕流が発生しました。

100万年前以降になると磐梯山の西側にある猫魔火山（猫魔ヶ岳）が活動を始めました。猫魔火山が活動を終えて、約30万年前になると磐梯火山が活動し始めました。約1万年前にはマグマの直接の噴出が止まり、ほぼ現在の姿になったと考えられています。

模型のスイッチを押すと、磐梯山の地下の様子を見ることができます。1888年の噴火はヒトにとって大きな出来事でしたが、その前にもダイナミックな自然の歴史があったのですね。

A 原始　縄文時代　竪穴式住居（たてあなしきじゅうきょ）

二本松市塩沢（しおざわ）上原（うわはら）A遺跡で発見された住居跡をもとに復元した縄文時代（約4,000年前）の家です。床には川原石を敷きつめて土器を埋めた「複式（ふくしき）炉（ろ）」と呼ばれる大きな炉があります。炉は、調理をする場所として利用されたほか、照明や暖房としての役割もありました。

弥生時代　稲を刈る人

約2,500年前、中国・朝鮮半島から九州地方北部に米づくりの方法が伝わり、弥生時代がはじまります。ここで展示しているのは、当時の稲刈りのようすを再現したものです。人形（愛称：弥生ちゃん）の右手に注目してください。当時は石（いし）庖丁（ほうちょう）という道具を使って稲の穂の部分だけを摘みとる方法で稲刈（いねか）りをしていました。

C 部門展示室　もあるよ

こんな資料も展示されています。

※【考古【歴史・美術】は展示替を行います。

【民俗】

サイノカミ

開館以来、この展示室のシンボルとしてそびえ立つサイノカミ。小正月（1月15日頃）に年神様を送る火祭りを、会津地方ではサイノカミと呼んでいます。十文字の珍しい形は、三島町滝谷地区独特のもの。よく見ると、飾りにもいろいろなものが使われています。燃え上がって見えるプロジェクションマッピングの演出も必見です。

【考古】

三角縁神獣鏡（会津若松市蔵・当館寄託）

春と秋には会津若松市にある国史跡「会津大塚山古墳」から出土した資料が並びます。なかでも、三角縁神獣鏡は東北地方で発見されたものでは唯一でここでしか見ることができません。また、靫（ゆき）という矢を入れる容器は赤漆塗で鮮やかに彩られておりこちらも注目です。

古代の東北南部でトップクラスの権力者が大切にしていたモノたちをぜひご覧ください。

【歴史・美術】

黒の展示室「歴史・美術」では1～2ヶ月ごとにテーマ展を開催し、収蔵する美術資料を中心に展示しています。恒例のテーマ展もいくつか。刀剣の魅力をお伝えしている「美しき刃たち」展もその一つです。「刃文がよく見える」とご好評いただいているライティングで、刀鍛冶の存在をリアルに感じてみるのも刀剣鑑賞の醍醐味です。白いあわいに何が見えるでしょうか。

【自然】

自然の部門展示室の人気者はフタバスズキリュウです。表紙の写真はドローンを使って上から撮影しました。フタバスズキリュウ以外にも福島県の化石や岩石がいっぱい展示してあります。

A 古代

古墳時代　泉崎村原山1号墳出土埴輪（はにわ）

泉崎村の原山1号墳からは、人物や鳥の埴輪がたくさん出土しました。埴輪の顔をよく見ると、目のまわりや頬に赤い線が描かれています。これは、この埴輪がつくられた当時の人々がしていたメイクを表現していると考えられています。ちなみに、耳のあたりから下に垂れているものは「美（み）豆（ず）良（ら）」という当時の男性の髪型を表しています。頭に板を載せているように見えるのは「島田（しまだ）髷（まげ）」という女性の髪形を表しています。埴輪のファッションにも注目です。

平安時代　薬師如来像（複製）（当館蔵）

福島を代表する仏像、湯川村にある勝常寺の薬師如来像の複製です。手に薬壷を持ち、人々の病を癒すほとけさまとして信仰をあつめました。お顔の表情を、すぐ近くに展示されている無量寺の阿弥陀如来像（複製）と見比べてみてください。少し厳しい表情をしていると思いませんか？平安時代前期、薬師如来像の前で自らの罪を告白する儀礼が行われていました。勝常寺薬師如来像のじっとこちらを見ているような表情は、像に向き合う人の告白を見定めている様子を表しているのかもしれませんね。